

平成 21 年 5 月 25 日現在

研究種目：基盤研究(B)  
研究期間：2006～2008  
課題番号：18320023  
研究課題名（和文）19・20 世紀における「啓蒙」の理念と実践についての系譜学的・比較史的研究  
研究課題名（英文）A genealogical and comparative historical study of the ideas and practices of “Enlightenments” in the nineteenth and the twentieth century.  
研究代表者  
富永 茂樹(TOMINAGA SHIGEKI)  
京都大学・人文科学研究所・教授  
研究者番号：30145213

研究成果の概要：本研究は 19・20 世紀の世界の「啓蒙」の受容・変形・批判の諸相の検討と 18 世紀欧州の「啓蒙」の再検討とを行い、1) 18 世紀の思想を同時代の社会史・政治史と照らしつつ新たな解釈を提示する、2) 「啓蒙」に近代の政治・社会の基本構想の起源を認め、それが 19 世紀以降いかに批判されつつ受容されたか解明する、3) 近代の諸学やそれらへの批判をはらむ知的な革新が「啓蒙」ともつ関係を解明する、という 3 点に努めた。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	4,800,000	1,440,000	6,240,000
2007 年度	5,900,000	1,770,000	7,670,000
2008 年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
年度			
年度			
総計	15,100,000	4,530,000	19,630,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・思想史

キーワード：社会思想史

## 1. 研究開始当初の背景

本研究では、「啓蒙」を、18 世紀ヨーロッパの思想潮流を指示する時代概念と、近代社会の組織化・再組織化に際しての鍵概念とする二重の射程を持ったものとして位置づけた上で、西欧諸国のみならず、アジア、アメリカ、ロシアなどを含めた世界的な展望のもとに、思想史・社会学・文学・芸術学・科学史などの多分野の 18 世紀研究者と 19 世紀・20 世紀の研究者を募り、およそフランス革命以後の世界における「啓蒙」の理念と実践の諸様態についての学際的・総合的な歴史研究を行うべく構想された。

## 2. 研究の目的

本研究は、19 世紀以降の世界における「啓蒙」の理念と実践の諸様態について、包括的で・統一的なヴィジョンをもった歴史叙述を提出することを第一の目的とした。そして、この歴史叙述を通じて、近代史において「啓蒙」が果たしてきた肯定的・否定的機能の偏差とともに恒常性を明らかにし、近代的な諸制度や実践の動揺が指摘される現在の状況において、われわれがなお「啓蒙」から受け継いでいるものは何か、あるいはまた「啓蒙」

の何を・どのように受け継ぐことができるかを提起することを第二の目的とした。

### 3. 研究の方法

上記の目的のために本研究は、①「啓蒙」概念の理論的展開を研究することを課題とした系譜学的手法と、②「啓蒙」思想・その概念と実践の、地域的分布の史的過程を確認するとともに、その変容を跡付ける作業としての比較史的手法、という2つの主要な方法論を採用した。

### 4. 研究成果

本研究はまず20世紀における「啓蒙」研究史を読み直し、各研究者の「啓蒙」概念の多様性と広がりとを確認したのちに、1)19世紀から20世紀にかけての世界における「啓蒙」の受容・変形・批判の諸相の検討、2)18世紀ヨーロッパのいわゆる「啓蒙」の時代の再検討の2つを主要な課題として研究を進めた。特に1)の主題からは、本研究は西欧・非西欧世界の交渉史の実相の確認にもその研究の射程を拡大し、ロシア・アメリカ・アジアにおける思想・概念の変容と連鎖とを問うた。これらは地理的な拡大と変容とを地位づけると共に、そこからの逆照射として「西欧」の意味内容とその史的展開についての再検討にもつながった。この問題意識から、西欧の思想史の問題系もさらに読み直しがなされた。そしてこれらの議論から発展して、本研究の活動としては、1)18世紀の思想を同時代の社会史・政治史とつぎあわせながら新たな解釈を提示する試み、2)「啓蒙」に近代の政治や社会の基本構想を生み出した起源を認め、それが19世紀以降どのように批判されつつ受容されていったかを明らかにする試み、3)近代の諸学(医学・法学・社会学など)や、それらの諸学への批判をはらむ知的な革新(精神分析など)が「啓蒙」ととりもつ関係を明らかにする試み、の3つへと分析の焦点を整理し、これに沿いながら各員の担当する研究課題について研究報告と討議をおこなった。

これらの討議の記録はすべてホームページで公開するとともに、研究活動の成果をまとめた報告書を一般書として刊行することを予定している。  
(<http://kyodo2.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~lumieres/>)

また、18世紀ヨーロッパの啓蒙および19・20世紀の啓蒙研究・啓蒙論の主要文献

の収集を行ない、京都大学人文科学研究所図書室に今後も多くの研究者にとって有益たりうる研究基盤を構築できた。

さらにヨーロッパの啓蒙論アンソロジー(翻訳論集)について、テキストの選定と翻訳の作業を引き続き進めている。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

① Sho Saito "der Sucht zu regieren entgegenzuarbeiten" - Humboldt, Dohm und die Physiokratie, 『独文学報』, 24, pp. 93-105, 2008. 査読無

② Kenta Ohji, 《Civilisation et naissance de l'histoire mondiale dans l'Histoire des deux Indes de Raynal》, Revue de Synthèse, 129-6-1, pp.57-83, 2008. 査読有

③ Shinichi Nagao, "The Segmentation and Connectedness of Public Discursive Sphere in the 18th Century: A Case Study of Thomas Reid", HERSETEC, 1-1, 2007, pp.1-99. 2007. 査読無

④ 富永茂樹 「トクヴィルの憂鬱—精神医学と人文科学のひとつの「交差」」『精神医学史研究』11-1, 2007年, pp.7-12. 査読有

⑤ 北垣徹 「社会学と精神医学—「社会的無意識」の概念」『精神医学史研究』11-1, 2007年, pp.33-35. 査読有

⑥ 小田川大典 「共和主義的アプローチとヴィクトリア期政治思想研究」『岡山大学法学会雑誌』56-2, pp.149-159, 2007年. 査読無

⑦ 岡田暁生 「クラシックの黄昏?」『大航海』60号, 2006年. 査読無

⑧ 小田川大典 「崇高と政治理論——バーク、リオタールあるいはホワイト」『年報政治学』2006-II号, pp.125-149, 2007年. 査読有

⑨ Shinichi Nagao, "The discovery of modern market society and its practical and social implication: an aspect of Scottish political and social thought in the 18th century", The Economic Science, 54-3, pp.1-24, 2006. 査読有

⑩ 富永茂樹, 「憂鬱という淵源」『みすず』541, pp. 8-17, 2006年. 査読無

〔学会発表〕(計 10 件)

①王寺賢太《Raynal, Necker et la Compagnie des Indes - Quelques aspects inconnus de la genèse de l' *Histoire des deux Indes*》、2009 年 3 月 26 日、パリ第 10 大学「18 世紀における知と文学」セミナー、ナンテール、パリ第 10 大学。

② 王寺賢太 《Nécessité/Contingence — Rousseau et les Lumières selon Louis Althusser》、2009 年 3 月 21 日、国際哲学コレージュ・フォーラム「アルチュセールとルソー」、パリ、国際大学都市、リュシアン・ペイ館。

③富永茂樹、「運動と停滞—トクヴィルを読む」、2008 年 12 月 13 日、大阪府立大総合教育研究機構主催シンポジウム「都市と群衆の近代」、大阪府立大学中之島サテライト講義室。

④王寺賢太、「18 世紀フランスの国制起源論—ブーランヴィリエからシェイエスまで」、2008 年 11 月 1 日、日本ヘルダー学会秋期研究発表会 シンポジウム「歴史哲学の諸相」、関西学院大学梅田サテライトキャンパス。

⑤増田真、「ルソーにおける人間の普遍性と国民的個性」、2008 年 10 月 17 日、国際高等研究所研究プロジェクト「多元的世界観の共存とその条件—閉ざされた世界から開かれた世界へ—」2008 年度第 3 回研究会、国際高等研究所。

⑥王寺賢太、「ルソーと啓蒙—ルイ・アルチュセールの場合」、2007 年 11 月 10 日、立教大学文学部創立 100 周年記念シンポジウム『文学を超えて ルソー研究の現在：作品の臨界』、立教大学。

⑦増田真、《Lois et individu chez Rousseau - Conception de la loi et idées sur le langage 》、2007 年 7 月 13 日、国際 18 世紀学会、フランス・モンプリエ大学。

⑧富永茂樹、「会長講演：トクヴィルの憂鬱」、精神医学史学会、2006 年 10 月 28 日、芝蘭会館別館。

⑨北垣徹、「社会学と精神医学—デュルケームとジャネ」、2006 年 10 月 28 日、精神医学史学会シンポジウム「精神医学と人文科学の交錯—その歴史」、芝蘭会館。

⑩斎藤光、「性倒錯の発見と主体化—科学史と精神医学」、2006 年 10 月 28 日、精神医学

史学会シンポジウム「精神医学と人文科学の交差—その歴史」、芝蘭会館。

〔図書〕(計 6 件)

①岡田暁生、『ピアニストになりたい!』、春秋社、2008 年、284 頁。

②岡田暁生、『恋愛哲学者モーツアルト』、新潮社、2008 年、237 頁。

③宇野重規『トクヴィル 平等と不平等の理論家』、講談社、2007 年、202 頁。

④山室信一、『憲法第九条の思想文脈』、朝日新聞社、2007 年、289 頁。

⑤ (翻訳書) レッシング『エミーリア・ガロットイノミス・サラ・サンプソン』、田邊玲子訳、2006 年、岩波文庫、356 頁。

⑥ (翻訳書) ドニ・ディドロ『運命論者ジャック』、王寺賢太・田口卓臣共訳、白水社、2006 年、361 頁。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

富永 茂樹(TOMINAGA SHIGEKI)  
京都大学・人文科学研究所・教授  
研究者番号 30145213

### (2) 研究分担者

山室 信一(YAMAMURO SHINICHI)  
京都大学・人文科学研究所・教授  
研究者番号 10114703

岡田 暁生(OKADA AKEO)  
京都大学・人文科学研究所・教授  
研究者番号 70243136

王寺 賢太(OHJI KENTA)  
京都大学・人文科学研究所・教授  
研究者番号 90402809

### (3) 連携研究者

田邊 玲子(TANABE REIKO)  
京都大学・人間環境学研究科・教授  
研究者番号 80188367

増田 真(MASUDA MAKOTO)  
京都大学・文学研究科・准教授  
研究者番号 10238909

斎藤 光(SAITO HIKARU)  
京都精華大学人文学部・教授  
研究者番号 80211259

長尾 伸一(NAGAO SHINICHI)  
名古屋大学・経済研究科・教授  
研究者番号 30207980

松澤 和宏(MATSUZAWA KAZUHIRO)  
名古屋大学・文学研究科・教授  
研究者番号 30219422

宇野 重規(UNO SHIGEKI)  
東京大学・社会科学研究所・准教授  
研究者番号 00292657

小田川 大典(ODAGAWA DAISUKE)  
岡山大学・法学部・教授  
研究者番号 60284056

北垣 徹(KITAGAKI TORU)  
西南学院大学・文学部・准教授  
研究者番号 50283669

斉藤 渉(SAITOU SHO)  
大阪大学・言語文化研究科・准教授  
研究者番号 20314411

崎山 政毅(SAKIYAMA MASAKI)  
立命館大学・文学部・助教授  
研究者番号 80252500

宇城 輝人(USHIRO TERUHITO)  
福井県立大学・学術教養センター・准教授  
研究者番号 60381703

葛山 泰央(KATSURAYAMA YASUO)  
筑波大学・人文社会科学研究科・講師  
研究者番号 30324699